

令和八年度 日高看護専門学校 入学試験問題

「一般」

「現代の国語及び言語文化」

(時間：六十分)

《注意事項》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。試験監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰め受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
現代の国語及び言語文化の問題は、全部で三十八問あります。解答用紙の問一から問三十八までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

一 次の問いに答えなさい。解答番号は①⑤。

問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違うものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は①。

- ① 栄花物語 ② 更級日記 ③ 平家物語 ④ 拾遺和歌集

問二 次の書き出しで始まる作品の作者を後から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は②。

廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お齒黒どぶにともし火うつる三階の騒ぎも手に取る如く、
明け暮れなしの車の行き来にはかり知られぬ全盛をうらなひて、大音寺前と名は仏くさけれど…

- ① 芥川龍之介 ② 森鷗外 ③ 樋口一葉 ④ 泉鏡花

問三 次のうち、敬語の使い方が誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は③。

- ① うちの母はあなたのお母様のことを昔からご存じです。
② あなたのお父上がご無事でお帰りになって本当によかったです。
③ 兄はすぐに参りますから、あと少しここでお待ちください。
④ 私が作ったものですが、よろしければお召し上がりください。

問四 「仲の悪いもの同士が一つの場所に居合わせる」意味を持つ四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。

解答番号は④。

- ① 不俱戴天 ② 呉越同舟 ③ 四面楚歌 ④ 南船北馬

問五 次の傍線部の語句と同じ意味・用法で用いられているものを、後から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は⑤。

ちよつとあの店でコーヒーでも飲みませんか。

- ① 何度呼んでも彼から返事は返ってこない。
② 今年の春はそれほど暖かでもなかった。
③ そのニュースは新聞でも大々的に報道された。
④ 暇だから今夜は映画でも見に行きましようか。

二 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。 解答番号は (6) (23)。

ひとの認識には影がつきものだ。ひとは世界を、社会を、いつもいま、ここから見ることしかできないのだから。そこには、見えるものの影になって見えなくなるものがかならずある。ある時点で過去をふり返ろうとすれば、過ぎ去ったボウダイ^aな記憶からある何かを選択するほかない。そこでは想起されなかった無数の出来事が闇に沈む。

17 世紀の哲学者、スピノザ^{*}は、「光が光と影を顕^{あら}わす」と書いた。光が当たるから影もできる。光がなければ (ア) 影もない。

見えないのは影になっているものだけではない。「A」¹ というように、見る者は見ているおのれ自身を見ることは能^{あた}わぬ。いくら場所を移してもこれは変わらない。そういうゲンカイ^bをもちつつ、ひとは世界を、社会を、さまざまの出来事を見てきた。見てこなかった。そう、モウテン^cというのが、認識にも想起にもかからずある。

「かたる」という日本語がよく示しているように、世界について何ごとかを「かたる」のは、語ることであると同時に騙^だる^{だれそれ}ことである。「誰某^{だれそれ}を騙る」ということばがあるように、騙るとはなりすますこと、偽ることである。(イ)、思い出を語ることにも騙りがつきまとう。

記憶は刻まれるとともに、選ばれるものでもある。何かを憶えているというのは、図として浮き上がるものと、地としてハイゴ^dに沈められるものとに、それと意識されることなく区分けされるということである。そういう操作を経たものとして、ひとの記憶はある。たとえばじぶんの過去。じぶんがこれまで経てきた途^{みち}、体験してきたことについて、ひとはセツセツ^eと語るが、それもほとんど騙りに近い。

記憶というのは、カンビ^fなものも多いが、苦いもの、痛いものはさらに多い。いまなお納得できていない扱いとか、じぶんに深い傷を残したままの仕打ち、あるいは棄てられた体験とかは、ずいぶん時が経ったはずのいまも不意にじくじくと疼きだして、こころを波打たせる。そういうきわだった体験^gにソ^hってじぶんの過去を語りだしてゆくうち、わたしが体験したはずのそれ以外の無数のとりとめもない出来事は、かき消されたり、背景に押しやられたりして、じっさいに体験したのとはずいぶん違った顔立ちになる。そうした語りをくりかえしているうち、過去の傷はじっさいよりうんと膨らんでくる。そうしてわたしは「悲劇の主人公」になる。

他方で、記憶は、消そうにも消せないものでもある。からだに染みついて拭い切れないもの、そうと意識に上ることなくからだの奥深くにまで沁みてゆくものである。そして思わぬときに疼きだし、消そうにも消え去ってくれないものである。

記憶の痛みには、ずきずき疼くものとぎりぎり刺すもの、疼きと激痛の二つがある。過去に受けた深い傷はいつまでもずきずき疼く。ここで疼きは、いつまでも過去のものとなってくれずに、ふ

としたはずみにしつこく首をもたげる。それとの向きあい強いられつづけるなかで〈わたし〉というものがかたちづくられる。

これに対し、激痛はそういう向き合いそのものを不可能にする。激痛は、ひとを時間の一点、空間の一点に閉じ込めるからだ。ひとの意識はその痛みの瞬間に貼りつけられ、そこから身を剥がすことができない。いいかえると、痛みに苛まれて、痛んでいるこの「いま」の前へと、あるいはその先へと思いをなびかせることができない。思い出に浸ることも、未来に思いをはせることもできないのだ。² 時が、いつてみれば庭を失って、点になる。苦痛のなかで、ひとは「いま」に閉じ込められる。

激痛はおなじように、ひとを「ここ」へ閉じ込めもする。からだは、痛むその一点へとナイコウして、もはやまわりの世界へとのびやかに開かれることがない。他人の言葉を懐深く迎え入れたり、他人の心境に遠く思いをはせる余裕もなくなる。ここでは、〈わたし〉は痛みそのものと化してしまい、じぶんというものに距離がとれない。痛みがうんと奥まり、ひとはただひたすらそれを独りで耐えぬくしかない。だれも代わりに痛んでくれないからだ。「中 略」

私事になるが、昨秋『哲学の使い方』という書物^Iを上梓したとき、その結びで、哲学するというような孤独な作業にも他者による支えが要ることを書いた。たった一人であつてもきつとだれかが読んでくれるはずだ、というふうに。

わたし(たち)のいのち、わたし(たち)の存在は、他の人たちとの関係のなかで保たれるものである。そうした関係から外されると消えゆくものである。だから、わたしがわたしでありつづけるためには、わたしがわたしとして消え入りそうなまさにそのときに、だれかに引き留められるでなければならぬ。憶えられているものでなければならぬ。「覚えがあること」「認めること」を、英語でレコグナイズという。レーコグナイズを字義どおりに解せば、あらためて知ること、知りなやすことである。他者によってあらためて在りとされることで、ひとは生き^{ながら}存^なえることができるのだ。

おなじように、〈物語〉という糸を抜かれた記憶は、よたよたしたもの、脆弱^{II}このうえないものだから、それを保つには、ゼセイⁱするには、他者の証言という支えが要る。記憶とは独りのいとなみではないのである。もしそれが「忘れねばこそ思ひ出さず」にあるものならば、だれかが代わりに語るといふこともありうる。アドヴォカシー、その声(vox)の代理である。まさぐるようにしてそのリンク^jにそつとふれるという……。『記録』という作業もそのような、まさぐりの支えとしてあるのではないか。

『記録』というその作業は果てしないものである。記憶、とくに痛みの記憶は、本人の意識も届かないほどに、からだの奥の奥に淀んでいるものだ。底のない淵のように、である。だから、理由のわからない痛みについて耐えかねて、あるいは記憶の淵をかき混ぜることによって生じるさらなる痛みに怯えて、その記憶を抑え込んでしまうこと、みずから蓋してしまうことも、ひとはある。

(鷲田清一「濃霧の中の方向感覚」より 途中一部省略がある)

*スピノザ オランダの哲学者(一六三二―一六七七)。

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **(6)**

a	ボウダイ	(6)	①	ボウキョウの念	②	経費のボウチョウが止まらない
b	ゲンカイ	(7)	③	テイボウを築く	④	ボウジャクブジンな態度
c	モウテン	(8)	①	文学カイ期待の新人	②	カイシンの当たりを出した
			③	校舎のカイチクが終わった	④	病気がカイホウに向かう
			①	ゼンモウのピアニスト	②	モウソウにかられる
			③	それがかなえばホンモウだ	④	八方に広がるテツドウモウ
d	ハイゴ	(9)	①	神社にサンバイする	②	すっかりコウハイした庭
			③	ハイスイ設備を見直す	④	ハイスイの陣をとる
e	セツセツ	(10)	①	ザセツを乗り越えていく	②	患部をセツジヨした
			③	健康を考えてセツセイする	④	友人をセツトクした
f	カンビ	(11)	①	不本意ながらカンジュする	②	カカンに挑戦した
			③	カンソウした空気	④	税金のカンプを受ける
g	ソって	(12)	①	二台がヘイコウして走る	②	学校のエンカクを調べる
			③	謀反の罪でルザイとなる	④	輸入がカイキンされた
h	ナイコウ	(13)	①	大臣がコウテツされた	②	コウオツつけがたい
			③	コウハイの面倒をみる	④	コウジョウ心が必要だ
i	ゼセイ	(14)	①	会館のラクセイ式を行った	②	セイトウな理由を述べる
			③	ギョウセイ改革を断行する	④	セイゼンと並んで行進する
j	リンカク	(15)	①	ジンリンに反する行為	②	工場にリンセツした敷地
			③	チュウリン場にとめる	④	元首としてクンリンする

問二 空欄ア・イにあてはまる語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は **(16)・(17)**

ア	(16)	①	むしろ	②	そこで	③	それにも	④	そもそも
イ	(17)	①	だから	②	なのに	③	しかも	④	しかし

問三 空欄Aにあてはまることわざとして最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は **(18)**

- ① 対岸の火事 ② 燈台下暗し ③ 月夜に提灯 ④ 暖簾に腕押し

問四 二重傍線部Ⅰ「上梓」とⅡ「脆弱」の意味として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。

解答番号は(19)・(20)。

- | | | | | | |
|----|------|---------|-----------|-----------|----------|
| I | (19) | ① 修正する | ② 提出する | ③ 出版する | ④ 読破する |
| II | (20) | ① もろいこと | ② 実力がないこと | ③ 弱点が多いこと | ④ あぶないこと |

問五 文中の空白の段落は以下の四つの文から成っている。その四つの文を正しく並べたものを後から選び、番号で答えなさい。解答番号は(21)。

号で答えなさい。解答番号は(21)。

- A それほど微弱なものである。
- B だから、真に迫る記憶も、それを編む〈物語〉という糸を抜けば、存外ありふれた体験だったと
いうことがよくある。

- C 〈物語〉として編まれることがなければ、記憶とは、思いのほか、消え入りやすいもの、隠されやすいもの、歪みやすいものである。

- D 記憶は時とともに消えゆきもするが、このようにどんどん膨らみもする。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① C ↓ B ↓ D ↓ A | ② D ↓ A ↓ B ↓ C |
| ③ D ↓ B ↓ C ↓ A | ④ C ↓ A ↓ D ↓ B |

問六 傍線部1「記憶は刻まれるとともに、選ばれるものでもある」とはどういうことか。その内容を説明したものとして最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(22)。

- ① 私たちは過去の体験をすべて克明に記憶しているわけではなく、そこには無意識のうちに記憶の外に追いつけられず、いつまでも心の奥底にとどめられるものがある。

- ② 私たちの記憶には様々なものがあるが、人間は無意識のうちに苦い体験、痛い経験を記憶の外に追いつけず、自分にとって良い記憶のみを選んで心の底にとどめようとする。

- ③ 私たちの記憶には何度も語ることによって心の底に残り、ゆくゆく記憶と、みずから過去をかき消すようにして語ることやめてしまいうちに忘れてしまう記憶がある。

- ④ 私たちが自分の過去を語るとき、自分の都合のよいように内容を偽ることがあり、そうした騙りを何度も繰り返すうちに、いつのまにかそれが自分の記憶として定着してしまうことが多い。

問七 傍線部2「時が、いつてみれば庭を失って、点になる」とはどういうことか。その内容を説明したものとして最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(23)。

- ① 激痛の記憶が人間をその現場に閉じ込めてしまい、他人の痛みを想像し共感することができなくなる。
- ② 痛みが過去の記憶を消し去ってしまつて、人は思い出の記憶の庭で遊ぶこともいっさいできなくなる。
- ③ 激痛を伴う記憶が人間をその痛み瞬間に連れて行き、人はその記憶から逃れることができなくなる。
- ④ 本来一度きりの痛み体験が人間の記憶を支配して、人は何度も同じような痛みを覚えるようになる。

三 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。 解答番号は (24) (38)。

「常にSNSで人とつながっている」という状況が、最近は特に顕著になっているのではないか……教員として若い人たちと接していると、そんなことをよく考えます。彼らは、常に人からどう見られるのかを気にしながら自分をとらえようとしています。自意識を他者によって絶えず刺激され続けているため、精神が徐々に^aシウモウしていくのも彼らの特徴です。このような状況に対し、他者の目を離れて自分の時間を過ごしてみよう、というのが単独者としてのあり方です。孤独と言うと少しネガティブな印象がありますが、本来一人きりの時間というのは、人と離れて自分の **A** を深めていく作業にあてられるべきものです。

日本では東日本大震災以降、「絆」という言葉があらちちろでスローガンとして使われ続けてきました。三・一一があつた後は顕著に団結が求められ、協力しない人間は少し非人間的だと見なされてしまうような同調圧力がありました。絆はキーワードとしては見事な力強さをそなえた一字で、その見事さゆえに瞬く間に浸透していきました。そのためか、一人きりでいるだけで、絆を拒否しているように見られてしまう面もあつたのではないでしょうか。¹ あれは絆というよりは、「協力」という言葉で表現すべきだったと思います。絆というメンタルに直接作用する言葉を使ったことで、それが人々の心に深く入り込み過ぎてしまった。しかし、本来であれば国民の税金は復興にあてられているわけですから、税金を払っている人は災害に対して最低限の貢献はしていると思ふを持ってよいはずです。絆と言われたことで、人々が心の奥底や自分の生き方までも変えなければいけないと思ひ込んでしまったわけです。

さらに、この数年の間にSNSが異常な勢いで広がったことで、一人の時間をシンシヨク^bするようになりました。特に若い人にとっては、コロナ禍であっても一人でいることが、ほぼ不可能になってきているように見えます。例えばSNSを一時間使わないで放っておくと、仲間との連絡の輪から外れてしまうかもしれないという不安を覚える。そうすると、他のことをやっても常にSNSが気になり、単独の豊かな時間を育む軸が失われてしまいます。またSNSをやっていると、普段は接点のない不特定多数の人からも、いきなりコンタクトが来ます。それは、いわば **B** を自宅に持ち込むような緊張感を伴う状況です。プライベートな空間や心の中に雑踏を持ち込んだら、それは落ち着かないでしょう。

この状況は、自分の中に「自分を監視する他者の視線」を内在化することにもつながります。これは^{*}ミシエール・フーコーが『監獄の誕生 監視と処罰』という本で分析していることです。当時、功利主義者のベンサムが考案した刑務所の様式に、全展望監視システム（パノプティコン）というものがありません。真ん中に監視塔があつて、そこから囚人たち一人ひとりを見ることができ、一方で、囚人たちからはその監視塔にいる監視者の姿を見ることができません。そうすると「常に監視されている」という意識が囚人に根付いてしまつて、実際には監視されていない状態であっても、監視の視線を内面化して自分自身をコントロールしてしまいます。それをフーコーは自発的服従と呼びました。

フーコーが言っているのは、そのような監視が刑務所だけではなく、社会のあらゆる所で行われているということです。今で言えばSNSが **C** のシステムとなり、気が付かないうちに私たちは **D** をしています。SNSはコミュニケーションの道具ですから、本来なら一方向的なものではありません。他人にいいね

と思われない、あるいはプライなどで他人に嫌な思いをさせたくない、他者に対して常に意識を持ち続けることで、²他者の目線を内面化してしまします。そしてそれが今、豊かな単独の時間をソ^cガイする大きな要因になっています。「中 略」

私は大学院時代の頃にゾーンの研究をしていました。ゾーンとは、^{*}マズローなどが至高体験と呼んでいる状態のことです。スポーツや勉強に集中している時に、時間がゆっくり流れて、海の底に静かにいるようになる、あの感覚です。その時は無理な力みもなく、気も緩んでもいない、リラックスして集中している状態になります。何かがあってもパニックにならない、投げ出さない、そして諦めない、しかしそこに執着しない精神を^{こうなりあすい}行雲流水と言います。行く雲、そして流れる水のようにあるというのが一つの理想の心のあり方です。執着から離れると、だんだん無駄な欲望も減っていくので、自分も楽になっていきます。一人でいる状態なのに、満ち足りて穏やかさがあるというのは、単独者としてかなりいい状態だと思っています。

ところが、そこに焦りがあつて世の中に対するウラ^dミが強くなると、良くない意味で孤独な状態になります。ですから、青年期は結構、孤独に陥りやすいと思うのです。大学院時代の私の場合は考え続けた末に、何か偉大な他者と自分を重ね合わせることによって、その孤独感を和らげました。例えば、旧制高校の学生に林尹夫^{ただお}さんという方がいて、学徒出陣の時の手記を『わがいのち月明に燃ゆ』という本に残しています。彼は一人で出陣しますが、その中でもなお勉強し続けます。死ぬ間際まで好きな勉強をするために、ドイツ語や色々な外国の言葉も勉強します。そういう人に自分を重ね合わせていくことで、大事な問題を他の人と共有しているような精神的な連帯感を覚えることができます。自分の身の周りの人間ではなく、過去の偉大な人から見いだせる精神の^eケイフというものがあると思います。そうすることで豊かな気持ちでいられる。それが³読書の良さなのです。

メンタルを正常に保つ、もしくはメンタルを強くするために、読書は非常にすばらしいものです。優れた人がゆっくりと語ってくれる言葉に共感する。例えば『《の『人間失格』を読むと、絶望的な話なのにもかかわらず、なぜか読んだ後に、ちよつと力が湧いてきます。『人間失格』では道化というキーワードが最初に出てきます。他の人に笑ってもらう道化として生きていくしか、もう自分は他の人との関係の取り方が分からないと言って、主人公は他者を意識した生き方をしているわけです。やがて身の周りの他者に疲れて、だんだん心のエネルギーが減ってくる。それを何かで補おうと思って、お酒をひどく飲んでみたり薬物に手を出したりするという話です。

自分の E を大事にしないと、それが枯渇してしまっていることに気が付かない。それを充電する時間が必要です。携帯電話やスマホも充電が必要ですが、私たちにとつての電力に当たるものが、偉大なる他者なのです。身の周りの他者は、どちらかと言うと嫉妬心があつて、他の人の足を引っ張ろうとする小さい存在です。ところが、過去の偉大な人は、もっと大きな視点で物を言ってくれます。そういうものを読んで共感すると、身の周りの^{きじ}些事³があまり気にならなくなります。

（齋藤孝「仏陀に学ぶ、単独者としての作法」より 途中一部省略がある）

* ミシエル・フーコー フランスの哲学者（一九二六～一九八四）。

* マズロー アメリカの心理学者（一九〇八～一九七〇）。

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **(24)**

- | | | | | | | |
|---|-------|------|---|--------------|---|--------------|
| a | シヨウモウ | (24) | ① | シヨウトウの時間だ | ② | フシヨウ事が起こった |
| b | シンシヨク | (25) | ③ | 事件のシヨウサイを語る | ④ | 万歳をサンシヨウした |
| | | | ① | シンカンとした室内 | ② | 野球のシンパンを務める |
| | | | ③ | シンリヤク戦争に反対する | ④ | シンシ的な態度 |
| c | ソガイ | (26) | ① | ソシナを進呈する | ② | キノ的な力に欠ける |
| | | | ③ | ソシキを変更したい | ④ | 抵抗を断固としてソシする |
| d | ウラム | (27) | ① | 何度もコウカイした | ② | ツウコンの極みである |
| | | | ③ | クノウで歪む顔 | ④ | ヒョウリ一体の関係 |
| e | ケイフ | (28) | ① | 目下ケイソウ中の事案 | ② | 呼吸器ケイの疾患 |
| | | | ③ | ケイエイ学を学ぶ | ④ | 十分なケイカイを怠らない |

問二 空欄 A～E にあてはまる語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号

- は **(29)** ～ **(33)**。
- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|---------|---|----------|---|----------|---|--------|
| A | (29) | ① | 圧倒的な自意識 | ② | 内面的な豊かさ | ③ | 精神面の回復 | ④ | 外面的な魅力 |
| B | (30) | ① | 都会の雑踏 | ② | 単独の豊かな時間 | ③ | 仲間との連絡の輪 | ④ | 他者の視線 |
| C | (31) | ① | 他者の視線 | ② | 視線の外在化 | ③ | 仲間との連絡 | ④ | 相互監視 |
| D | (32) | ① | 同調圧力 | ② | 精神的逃避 | ③ | 自発的服従 | ④ | 緊張感の回避 |
| E | (33) | ① | 心のエネルギー | ② | 孤独な生き方 | ③ | 偉大なる他者 | ④ | 精神的連帯感 |

問三 《 》 にあてはまる小説家の名前を次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **(34)**。

- ① 中島敦 ② 太宰治 ③ 安部公房 ④ 村上春樹

問四 傍線部 1「あれは絆というよりは、『協力』という言葉で表現すべきだったと思います」という筆者の思

いを説明したものとして最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **(35)**。

- ① 絆という言葉はキーワードとして見事な力強さを持った言葉だったが、あまりにもパワーがあり過ぎたため同調圧力が強くて、日本中が協力する人間と協力しない人間に二分されてしまった。
- ② 絆という言葉にあまりにもインパクトがあったためみんながその言葉に酔ってしまって、本来の協力をないがしろにして、絆というスローガンを前面に押し出して自分たちはその陰に隠れてしまった。
- ③ 災害に対して各自最低限の貢献はできたはずなのに、絆という強烈な言葉を使ったため自分の生き方を変えないといけないと思ひ込み、復興に協力できないと考える人が出てきてしまった。

- ④ 協力という言葉なら普段の生き方をしながら復興に貢献できたのに、絆という感情に響く言葉を使ったため、必要以上に自分の生き方まで変えないといけないと日本中が思い込んでしまった。

問五

傍線部2「他者の目線を内面化してしまいます」とはどういうことか。その内容を説明したものとして最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は〔36〕。

- ① 常に他人からどう見られているかが気になってしまい、他者の視線を意識して行動してしまう。
② 自分が自分でなくなった感覚におちいり、自分の行動を他人の目線で見てしまう。
③ 自分に関する意識がだんだんと薄れてきて、一日中他者の行動ばかりが気になってしまう。
④ 自分の内側に他者が入り込んでいる感覚があり、何をするのでも自分の意志通りに動けない。

問六

傍線部3「読書の良さ」について、筆者の考えに近いものはどれか。最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は〔37〕。

- ① 自分の人生がたとえつまらないものであっても、過去の偉人と精神的な連帯感を覚えて満足できる。
② 孤独感を強く感じている時でも、過去の偉大な人と精神的につながることで豊かな気持ちを保てる。
③ 偉大な人の手記などを読めばその人がどうやって勉強したのかがわかり、自分の勉学の参考になる。
④ 自分とはまったく違う生き方をしている人の話を読むことで、大きな視点を身につけることができる。

問七

本文全体を通してSNSについての筆者の思いはどのようなものか。その内容を説明したものとして最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は〔38〕。

- ① SNSを使えば普段は接点のない不特定多数の人たちとも連絡を取り合うことができ、そういう他人の人生に刺激を受けて自分の人生を大きく飛躍させることもできる。
② SNSでのみ人とながつているような若者が最近が増えてきているし、その中で他人の評価を異常なまでに気にする人も多いので、もうSNSの利用は控えたほうがよい。
③ SNSを利用する中でいつでもどこでも他人の目を意識するのは、自分の豊かな時間を損なうおそれがあるので、読書など単独の豊かな時間を育むことも大事にしてほしい。
④ SNSは使いようによっては世界中の偉大な人間とも交流できるわけだから、自分の狭い世界に閉じこもらないで、精神的な連帯感を感じるような相手を見つけて交流してほしい。